

## 青春18切符で『日本遺産・生野銀山』を訪ねる(兵庫)



月見草がひっそりと開いていました。

朝7時53分、JR関西線「平城山(ならやま)」駅から、青春18切符で乗車します。この時間帯、平城山駅は無人ですから切符に押印は出来ず、2駅目の郡山駅で一旦下車する時に押印してもらいました。郡山駅で待っていた3人と共に再び乗車、大阪、姫路を経由して、目的地の播但線「生野(いくの)」駅を目指します。途中、次々と合流して、12時10分に生野駅に到着した参加者は、20名(男性14名、女性6名)になりました。兵庫県朝来(あさご)市生野は、生野銀山の麓の町で、今回の燦歩はまず銀山跡に向かい、帰路に生野の町を歩きます。

梅雨が明け台風が去って、この日の天気予報は「晴れのち雨、夕立ちのおそれあり」です。結果的には、短時間だけ「狐の嫁入り」を思わせるように、雨粒が舞いましたが、本降りにはならず、最終的に最高気温は33.3度を記録しています。

銀山へは小さなバスで向かいます。運転手さんが釣銭が足りるか心配する程、私達だけで満員です。途中、大きな工場に差し掛かりました。生野銀山の流れを汲む「三菱マテリアル」生野事業所です。三菱の創始者・岩崎彌太郎は明治初年から幾つかの鉱山を買収する中で、1896(明治29)年に生野、佐渡、大阪製錬所の払い下げを受け製錬事業を本格的に始めました。その歴史が、今も続いているのです。しかし戦後、鉱山としては、良い鉱石が乏しくなり、また坑道が長く延びてコストが嵩み、採掘も危険になったことから、1973(昭和48)年に閉山になりました。その後、鉱山の遺跡として国の史跡に指定され、また近年は「近代化産業遺産」「重要文化的空間」など様々な称号が付いていますが、2017年には「日本遺産」に指定されました。(日本遺産については補足に譲り、先を急ぎます。)



バスはおよそ20分で、生野銀山に着きました。

立派な石の門柱は菊の紋章付きです。

かつて工場の正門としてそびえ、閉山後にここに移設されたものです。

鉱山、工場を明治政府、次いで皇室が管理していた時代の名残です。



昼食後、ガイドさんの案内で坑道の中に入ります。

内部は一気に温度が下がり13度。

あわてて、上着を羽織ります。

見学できる坑道はおよそ1kmで、約1時間。

その中で、手作業の採掘、選鉱から、

近代の掘削や発破の作業、巨大な巻き上げ機、

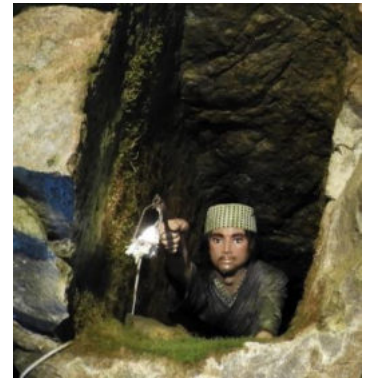
2階建てのエレベーターなど、様々な鉱山の様子を見る事が出来ます。

鉱石を運び出す、トロッキのレールが敷かれた所もありました。

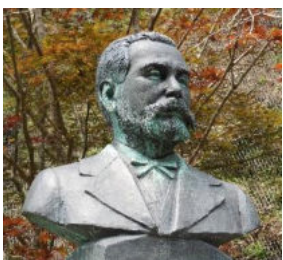


永年の間に坑道は地下880mの深さまで達して、総延長は何と350Kmになったのだそうです。嘗々と掘り進められてきたのですね。

辛苦の跡が偲べるようにと、随所にマネキンが配置され、作業の様子を再現していました。これは「狸掘（たぬきぼり）」。人がやっと通れるほどの穴を、まるでタヌキがゴソゴソ歩き回るように掘り進んだのですね。体を屈め、ノミと鎚だけで、岩を削って崩すのですから、大変な重労働。しかも、暗く、空気は澁み、湿度は高く、岩屑のホコリが舞い、極めて厳しい環境。坑夫としての寿命は6年と云われ、30歳ぐらいで亡くなる人が、少なくなかったそうです。



坑道の体験から出て来た所で全員撮影です。(坑内で使っていたカメラは冷え切っていて、猛暑の外気に触れると、一瞬でレンズが曇ってしまいました。予備のカメラが役に立ちました。)



坑道を見守るかのように、一人の外国人の銅像がありました。明治初めのお雇いフランス人で技師長のジャン・フランソア・コワニエ（1835～1902）です。

生野銀山は、戦国時代に本格的な採掘が始まり、石見銀山と並ぶ有数の銀山として、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康と、代々の権力者が我が物にします。江戸時代には幕府の生野奉行（後に代官）が管理し、銀の産出が減少した後は、銅・錫などを産出してきました。

1868（明治元）年から明治政府が直接運営する鉱山となり、コワニエらの助力を得て、近代化が進められます。コワニエこの時33歳。「チーム・コワニエ」とも呼ぶべきお雇いフランス人たちは、人力のみに頼っていた採掘に機械や火薬を採り入れ、より金の多い鉱脈を探し、鉱石を運ぶのにも、トロッコや巻揚機を使えるようにします。また、生野に鉱山学校を設け、さらに、製錬した鉱石や物資のための輸送路を整備します。この輸送路が「日本遺産」に指定されたのです。



銀山を出て、再びバスで生野の町へ戻ります。  
町外れに、一見武家屋敷風に長い塀が続いていました。  
生野鉱山の職員宿舎が明治～昭和の姿に復元整備されたもので、市の文化財です。全体が「甲社宅」と呼ばれ、1号は鉱山所長の宿舎です。ここは幹部社宅で職階順に小さくなり、中には2戸一棟のものもあって、20号までこの地に並んでいたのです。  
(私もかつて住んだことのある、舎宅時代を思い出しました。)

1905(明治38)年、この社宅の11号に生まれたのが、後の名優志村喬(本名・島崎捷爾しょうじ)です。

懐かしい名前ですね。思い浮かぶのは「七人の侍」の豪胆沈着なリーダー。「生きる」で、降りしきる雪の中、公園のブランコで、揺れながら、絞り出すように口ずさむ「ゴンドラの歌」。そして「寅さんシリーズ」でさくらの夫博の父親の名誉教授。志村喬の思い出では「精錬関係の責任者のような仕事をしていたので、生活もわりと裕福で、女中さんも雇っていた」と。お父さんは土佐藩士の家系で、鉱山の冶金技師を務めていたそうです。いま、甲7号社宅が志村喬記念館として、少年時代の資料や、出演映画のポスターなどを展示していました。

鉱山から流れる川は「市川」。生野の町を通り、姫路まで流れ下ります。鉱石や製品は、川沿いの崖に築かれた軌道を、トロッキで生野まで運ばれました。今もその軌道の跡が残り、一部レールが復元されていました。涼しい風の吹き抜けるトロッキ軌道跡をしばらく歩き、16時26分生野発の列車で、全員無事帰途に就きました。



私の出発駅「平城山」到着は20時22分。青春18切符を満喫した、長くも楽しい一日でした。平城山駅は無人で、闇に包まれていました。

\* \* \*

相変わらずの補足・蛇足で失礼します。

その1 日本遺産 「播但(ばんたん)貫く、銀の馬車道 鉱石の道  
～資源大国日本の記憶をたどる73kmの轍(わだち)～」の事

さすがに長い名前ですね。「銀の馬車道(49km)」は、生野鉱山と姫路市の飾磨津(しかまつ)を結び、「鉱石の道(24km)」は、生野鉱山、神子畑(みこばた)鉱山、明延(あけのべ)鉱山などをつなぎます。鉱石を生野に運び、更に飾磨の港まで荷馬車で運搬した道です。幅6mの、当時としては最新鋭の舗装道路「生野鉱山寮馬車道」です。さらに、飾磨港から大阪の造幣局や香川県の直島精錬所へ船で輸送されたのです。



日本遺産（にっぽんいさん）とは、地域の文化財を歴史や文化の「ストーリー」（物語）として、文化庁が認定し、観光振興などにつなげるのがねらいだそうです。いわば「点 ポイント」から「線・面 ストーリー」という事でしょうか？ 指定されたものは、今年3月現在で67件。文化庁のリストではそれぞれストーリー番号が付けられ、「銀の馬車道・鉱石の道」は、「ストーリー45」です。

ちなみに、鯖街道（福井県）、琵琶湖の水辺景観（滋賀県）、日本茶800年の歴史散歩（京都府）、飛鳥を翔けた女性たち（奈良県）、湯浅の醤油醸造（和歌山県）などなど、燦歩会で訪れた所も多く入っていました。

その2 お雇いフランス人たちの事

「生野史」という郷土史にお雇いフランス人たちの一覧表がありました。復刻本で細部が読みにくいので、エクセルに入れて、職種別に色分けしてみました。（原本の素朴な風合いが失われて、残念でしたが）左から職名、氏名、給料、在任期間です。

茶色はリーダーともいえるべき「鉱山師、土質家」水色は「坑夫」緑色は「医官」そして赤は「レンガ積職」「鋳物鋳鉄師」「機械方」「鍛冶職」等々の技術職。彩色してみると、前半期には「坑夫」が多く、後半期には「機械師」などエンジニアが多くなる事が読み取れます。開発と機械化、そしていわゆる「技術移転」が進められたという事なのでしょう。

職名	氏名	給料円	在任年月															
			明治元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14		
鉱山師	エル・フランソワ・コワニー	800	9月											1月				
坑夫	ビケー	91		12月	11月													
坑夫	ルビー	91		12月	11月													
坑夫	ポリー	91		12月	11月													
土質家	ゼーボース	570		2月	9月													
土質家	エレルテオヒル・ムーセ	700				12月												4月
煉瓦積職	アルホンス・パリス	120				12月	1月											
坑夫	ピ・エール・マルロー	130				12月	2月											
坑夫	フランソア・アラン	130				12月	2月											
坑夫	アンドアス・ゼロー	130				12月	2月											
坑夫	ビエルデウエルナール	130				12月	2月											
土質家	レスカース	300					3月	9月										
医官	ヨークスタン・エノン	350					6月	9月										
鋳物鋳鉄師	ジャク・ラブラント	150					6月	7月										
機械方	ジャバチン・トリエスタン・ベルゼー	200					6月											3月
機械方	グロード・ウェルネー	200					6月							11月				
鋳鋼鋳師	ポールレルム	120						1月										4月
土質家	レオン・シスリー	300						5月										1月
焼鋳夫	アントル・ボッシ	103						6月										3月(死亡)
機械師	ゼフゼス・リュスタン・ベルゼー	200								5月								8月
坑夫	シャン・レニオル	200									5月							4月
医官	フランソワ・マイエ	300										10月						4月
鍛冶職	レビケ・ミラー	150											9月					4月
機械師	シャル・フードア	200														4月		6月

ここには24人が記録されていますが、長い人は9年間在任、短い人は1年で退任しています。中には焼鋳夫アントル・ボッシの様に、この地で没した人もいます。

最も長く務めたのは、「鉱山師コワニー」と「土質家ムーセ」の2人のリーダーです。  
この二人の給料は、800円と700円。貨幣価値の比較は難しいのですが、「明治初年の1円＝今日の2万円」という目安に従えば、1500万円という事になります。これは月給です。念の為。

ちなみに、コワニエは1877（明治10）年1月末で、離任して帰国します。1902年に故郷のサンテティエンヌで、67歳で亡くなったそうです。どのような後半生を送ったのでしょうか？

### その3 銀山ボーイズの事



今、生野銀山で大人気なのが「銀山ボーイズ」です。  
坑道のそここで仕事をしているマネキンたちで結成されたものです。  
超スーパー地下アイドルユニットと銘打って、ホームページでは「ギンギラ  
銀山パラダイス」という歌も披露。この曲には、お雇いフランス人コワニエ  
に捧げるフランス語版もあります。  
ボーイズのネーミングも傑作で、ナンバー1は次郎羅茂（じろうらも）、  
2は太郎羅茂（たろうらも）、……8はコ・シバ（素粒子物理学者）……。  
そして、ボーイズとはいうものの、中には、あやこ、かなめちゃんA、  
かなめちゃんB、しずかなど女子も参加して、総勢60名に昇ります。

私は写真のクリアファイルを買って求めましたが、他にもTシャツなどのグッズも売り出し、  
またまた、ファン投票・総選挙も実施。大いに盛り上がっているのです。  
お時間がありましたら、一度インターネットでお試してください。

\* \* \* \* \*

### ご案内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、**毎月第4日曜日**に歩いています。メンバーはおよそ50名、その日の都合と体調に合わせて自由参加です。（事前に予約が必要な場合もあります）

今後の予定は

- 8月 暑さを避けて 休会
- 9月29・30日（日・月） ツアー 美ヶ原の自然を満喫（長野）
- 10月27日（日） びわ湖バレイを楽しむ（滋賀）
- 11月24日（日） 京都一周トレイル第3回 蹴上から銀閣寺前まで（京都）
- 12月15日（日） 納会（大阪）
- 1月26日（日） ちんちん電車に乗って住吉さんから堺の街を歩く（大阪）
- 2月23日（日） 西行入寂の弘川寺と富田林寺内町を散策（大阪）
- 3月22日（日） 華岡青洲の里と粉河寺を訪ねる（和歌山） \*青春18切符利用

参加ご希望の方は、会務担当山村恵一にご連絡下さい。（電話090-1484-4403）  
ご一緒に気軽に楽しく歩きましょう。 （写真・文 生島 幸弥）